

# 青森県花き振興方策



平成26年3月  
青森県農林水産部農産園芸課

## はじめに

国内における花きの生産と消費は、これまで長引く景気低迷の影響などで減少傾向をたどってきました。しかし、現在は、最近の好況感を受け法人需要の回復に期待が高まっているほか、国においても、輸出促進等を含めた花きを振興していくための法案づくりが進むなど、花き産業にとっての追い風が強まりつつあります。

また、一方で、水田農業に係る政策転換が進められる中で、県内のそれぞれの地域においては、収益力向上に向けた取組の一つとして、花き生産の拡大が重要性を増してくるものと考えています。

本県の花きは、夏季冷涼な気候や健康な土など恵まれた環境で育ち、生産者の技術力も高く、「色鮮やかで日持ちが良い花」との評価を得ています。多くの品目で生産が減少してきた中であっても、県内では、この10年間に作付面積・産出額とも増えた品目があるなど、他県よりも優位な点を見いだすこともできます。高齢化に対応した担い手の確保や燃油高騰への対応など課題はありますが、本県の優位な点をとことん伸ばし、課題はむしろ今後の伸びしろととらえ、チャレンジしていくことが重要です。

本方策は、上位計画で新たに策定された「攻めの農林水産業」推進基本方針」で示す取組内容のうち、農業の成長産業化に向け、収益力と働く場を生み出す「産業力」強化の一分野としての本県花き生産に係る具体的な取組内容を示したものです。

関係者が同じ方向を目指しながら積極的に連携し、花き産地育成のための指導強化と県産花きの需要拡大を図っていただきますようお願い申し上げます。

平成26年3月

青森県農林水産部農産園芸課  
課長 成田勝治



# 目 次

本方策を策定したねらい

## 第1章 花き生産・流通の現状

1 全国の状況	1
2 都道府県別の状況	2
3 本県花きの品目別状況	2
4 県内農協系統の状況	4
5 県内花き卸売市場動向	5
6 県内産地直売所の花き販売状況	7

## 第2章 本県花き生産・流通の課題

1 生産対策	8
2 流通・販売体制の整備と消費拡大対策	9
3 担い手の育成・確保	10

## 第3章 本県花き振興のための方策

1 生産対策	11
2 流通・販売体制の整備と消費拡大対策	13
3 担い手の育成・確保	14

## 第4章 本県花き生産の目標

## 第5章 品目別振興方策

1 重要品目	17
2 地域振興品目	20

【参考資料】	22
--------	----



# 青森県花き振興方策

## 【全国の状況】

生産は2割減少、輸入は2割増加

## 【都道府県の状況】

1位は愛知県、青森県は39位

## 【本県花きの品目別状況】

全体では減少しているが、サクラ、アルストロメリア、トルコギキョウは増加

県内市場の県産は2割以下で増やせる余地あり

産地直売所でまだまだ需要があるキク、トルコギキョウ

## 【県内花き産地の課題】

- 連作障害による塩類集積や土壌病害の発生
- 生産者・産地間で日持ち性にばらつきがみられる
- 花き生産者の減少により、担い手の育成・確保が急務

## 【生産対策】

- 1 高品質安定生産の推進  
環境に優しい病害虫防除対策・土壌健全化  
苗の低コスト安定供給体制整備
- 2 長期出荷に向けた省エネ・低コスト栽培の推進  
もみ殻暖房等省エネ暖房の普及
- 3 夏場の高温対策の推進  
寒冷紗等遮光資材の推進  
井戸水冷却等の低コスト技術の試験・普及
- 4 取り組みやすい土地利用型花きの推進  
ひまわり、グラジオラスなどの導入推進
- 5 特色ある産地づくりに向けた県育成オリジナル品種等の導入  
デルフィニウムなどの安定供給・生産

## 【流通・販売体制の整備と消費拡大対策】

- 1 産地と連動した市場の新たな販路開拓  
消費地の販売店へのテスト供給  
市場展示・求評会による産地情報の提供
- 2 新たな市場の創出に向けた物流システムの構築  
関係機関が連携した流通方法の改善  
日持ち向上を有利販売に結びつけるPR
- 3 お客様から支持され選ばれる県産品の創出  
販売形態に対応した産地情報の提供
- 4 産地消と花育活動の推進  
花の魅力を情報発信

## 【担い手の育成・確保】

- 1 多様なルート・手法による新規就農者の育成  
営農大学校等での花き栽培の啓蒙  
遊休ハウスの斡旋、研修等のフオロアップの強化
- 2 集落営農組織への花きの導入  
高収益作目として花きの導入推進  
花き栽培を指揮する担いダーの育成
- 3 活躍が期待される女性農業者の育成  
産地直売所会員を対象とした研修会、トレーナー制度  
無理なく開始できる品目の提案

品目ごとの強みを活かして花き生産

## 【重要品目】

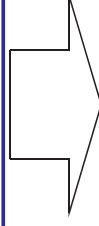
- キク<sup>のび</sup> H24 28.8ha → H30 34.0ha  
 ・物日等で確実需要がある  
 ・単価も比較的安定  
 ・出荷時期の調整が可能
- トルコギキョウ H24 9.6ha → H30 13.0ha  
 ・年々高まる需要  
 ・盆や彼岸出荷作型が無加温栽培可能
- デルフィニウム H24 0.7ha → H30 3.0ha  
 ・多彩な県育成オリジナル品種  
 ・長期出荷が可能  
 ・冷涼な気候で生育良好

## 【地域振興品目】

- ヒマワリ H24 3.5ha → H30 5.0ha  
 ・短期間で収穫可能な品目  
 ・露地栽培で容易に栽培
- リンドウ H24 2.3ha → H30 3.5ha  
 ・水田転作での生育良好  
 ・露地栽培が可能
- アルストロメリア H24 2.4ha → H30 4.0ha  
 ・夏秋期に有利販売  
 ・加温により周年出荷も可能
- グラジオラス H24 1.5ha → H30 2.5ha  
 ・露地栽培が可能  
 ・省力的で大規模生産が可能

## 県産花き振興目標

H24 H30  
 作付面積 (ha) 138 → 167  
 産出額 (億円) 22 → 30





## 本方策を策定したねらい

本県が平成16年度から進めている「攻めの農林水産業」については、平成26年度から3期目の施策が展開されます。

このために、新たに策定された「攻めの農林水産業」推進基本方針においては、第2章で今後の展開方向を示し、農林水産業はビジネスが広がる「成長産業」であると捉え、目前の課題や環境変化に絶えず「攻めの姿勢」で挑戦しながら、これまで培ってきた豊富な農林水産資源や恵まれた生産基盤、元気のある「人財」など本当の「強み」を最大限に発揮する施策を展開することとしています。

また、第3章では攻めの農林水産業の推進方策として、販売力強化や生産力向上、人財育成など5本柱の施策体系ごとに施策の方向性と主な取組を示しています。

本方策は、本県花きの振興を図るために「攻めの農林水産業」の展開方向で示された考え方を前提としつつ、「安全・安心で優れた青森県産品づくり」や「信頼・人のつながりに支えられた『売れる仕組みづくり』」、「生産振興の方向『花き』」などの中で取り組んでいくこととしている花きに関連する事項について、関係者・関係機関が現状認識を共有し、課題解決に力を合わせ一丸となって取り組んでいくことができるよう、より具体的な取組内容を示したものです。

## 第1章 花き生産・流通の現状

### 1 全国の状況 ～生産は2割減、輸入は2割増～

国内の花き生産は、長引く景気悪化による消費低迷のほか、燃油等の資材価格の高騰による生産コストの増加などにより減少しています。

生産状況を作付面積と産出額で見ると、各々平成7年と平成10年にピークを迎えた後、年々減少を続け、直近の平成24年には10年前より2割程度少ない19,388haと3,451億円となりました。

一方で、花きの輸入は、切り花を中心に拡大を続けており、平成14年の457億円から平成24年には約2割増の544億円となりました。

図表1 花きの国内作付面積・産出額と輸入額の推移

(単位:ha、億円)

年次 項目	平成14年		平成19年		平成24年	
	作付面積	産出額	作付面積	産出額	作付面積	産出額
国内生産	23,781(100)	4,471(100)	21,526(91)	4,051(91)	19,388(82)	3,451(77)
輸入額	—	457(100)	—	565(124)	—	544(119)

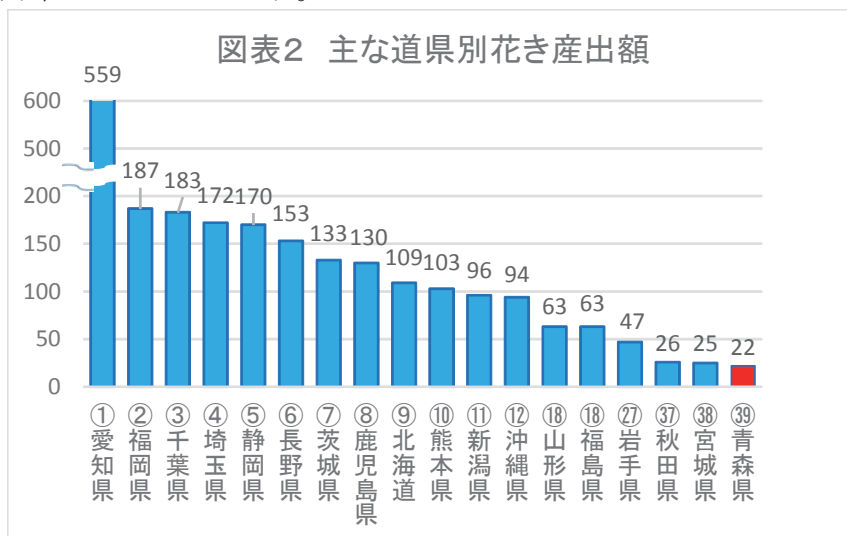
( ) は平成14年を100とした指数

【資料：農林水産省 生産農業所得統計・花き生産出荷統計】



## 2 都道府県別の状況 ～1位は愛知、青森は39位～

平成24年の都道府県別の花き産出額は、愛知県の559億円が1位で、次いで福岡県、千葉県、埼玉県、静岡県の間となっており、本県の産出額は22億円で、全国39位、東北では最下位となっています。



県名上段の丸囲み数字は全国順位

【資料：農林水産省、農業産出額統計】

## 3 本県花きの品目別状況

～全体減の中でサクラ、トルコギキョウ、アルストロメリアは増加～

本県の花きの作付面積は、平成14年には253haでしたが平成24年には約5割減の138haとなりました。また、産出額は平成14年には34億円でしたが平成24年には約4割減の22億円まで減少しました。

平成24年の品目別作付面積では、キク類(輪ギク、小ギク、スプレーギク)が最も多く、次いでサクラ、トルコギキョウ、バラ、ヒマワリの順となっています。平成14年との比較では、多くの品目が減少している中で、サクラ、トルコギキョウ、アルストロメリアは増加しています。

図表3 増えた品目の増加要因

品目	増加要因
サクラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主力品目のりんごと作業が競合せず、りんごの栽培技術が活用できた</li> <li>・冬場の収入源となった</li> <li>・病害虫の発生が少なかった</li> </ul>
トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫時期が他県産と競合しなかった</li> <li>・品質が良く販売単価が高かった</li> <li>・農協花き部会で新品種の展示ほを設置した</li> </ul>
アルストロメリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入当初行政と農協が施設や球根の購入を支援した</li> <li>・農協花き部会がしっかりまとめていた</li> <li>・品質が良く販売単価が高かった</li> <li>・県外向け出荷体制が整備された</li> </ul>



種類が豊富な県産花き

図表 4 本県花きの主要品目別作付面積・産出額の推移

(単位:ha、百万円)

年次 品目	平成14年		平成19年		平成24年		24/14(%)	
	面積	産出額	面積	産出額	面積	産出額	面積	産出額
キク	50.7	595	35.6	625	28.8	495	57	83
サクラ	10.9	2	17.4	12	17.0	14	156	700
トルコギキョウ	8.7	134	8.0	157	9.6	144	110	107
バラ	9.1	450	5.7	246	3.7	96	41	21
ヒマワリ	8.7	72	5.0	35	3.5	29	40	40
アルストロメリア	1.0	26	2.1	58	2.4	82	240	315
リンドウ	9.5	91	2.5	26	2.3	14	24	15
ユリ	5.5	91	1.9	34	2.2	29	40	32
カーネーション	3.0	63	1.9	49	1.5	23	50	37
その他品目	145.6	1,910	94.1	1,420	67.4	1,239	46	65
合計	252.7	3,434	174.2	2,662	138.4	2,165	55	63

【資料：花き産地出荷状況調査】



JA部会単位で開催される研修会(トルコギキョウ)

#### 4 県内農協系統の状況 ～取扱量減の中で7割まで高まる県外出荷割合～

J A全農あおもりの平成24年花き取扱状況は、数量で839万本（14年比55%）、販売額で5億4千万円（同54%）、県外出荷割合は69%で県全体の花き産出額に占めるJ A全農あおもりの割合は25%となっています。

なお、本県で花きを取り扱っている農協は9農協で、個別選別、共同出荷が主流となっています。

図表5 J A全農あおもりの花き取扱状況（単位:千本、円、百万円、%）

項目	年次	平成14年	平成19年	平成24年	24/14(%)
数量		15,291	11,312	8,388	55
単価		66	71	65	98
販売金額		1,006	804	542	54
県産出額に占める全農割合		29	30	25	—
県外出荷割合		56	61	69	—



近年増加傾向のアルストロメリア

## 5 県内花き卸売市場動向 ～県産は2割以下で増やせる余地がある～

地元花き卸売市場である青森市の株式会社青森花卉における県産花きの占める取扱割合は、数量・金額ともに2割以下となっており、県産をまだ増やせる余地があります。

主な品目の月別の入荷量と単価の状況は、次のとおりです。

図表6 平成24年青森花卉市場における産地別切り花類取扱数量

(千本、千円、%)

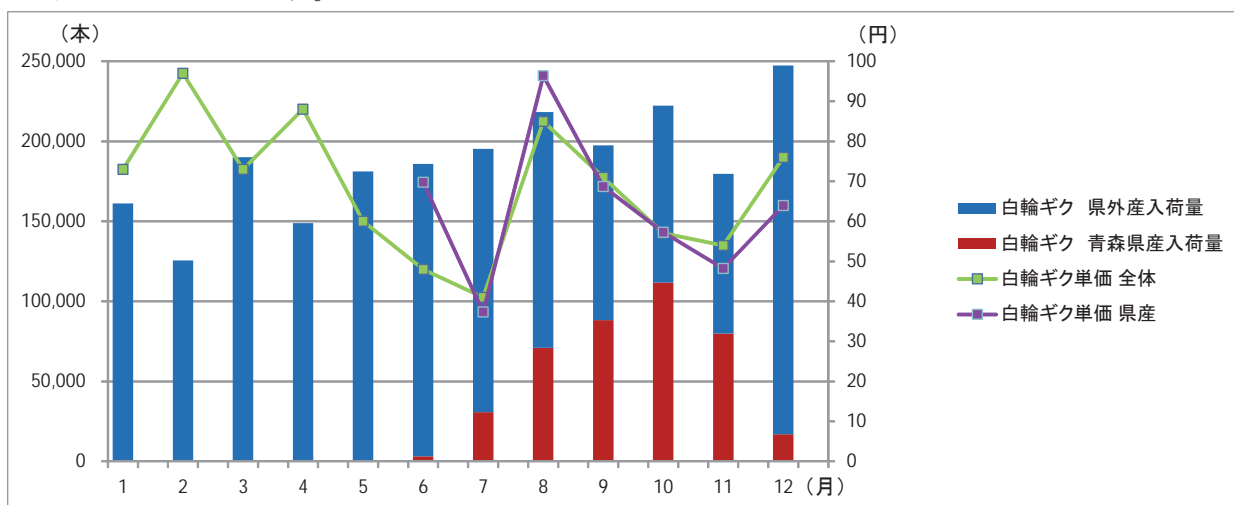
産地名	数量	割合	金額	割合
青森	2,377	16	159,842	18
愛知	2,917	20	184,897	21
東京	2,009	14	103,920	12
千葉	1,800	12	91,307	10
宮城	949	6	71,688	8
沖縄	680	5	29,559	3
山形	331	2	22,093	2
合計	14,611	100	901,596	100

【青森市中央卸売市場「市場年報」】

### (1) 輪ギク ～県産の入荷数量が最も多い10月でも50%と少ない～

市場の入荷数量が最も多い品目は輪ギクで年間約281万本流通しています。うち県産は、7月から11月までの夏秋期を中心に約46万本流通しており、全体に占める割合は16%で、最も入荷数量が多い10月でも50%と少ないため、県産の増加が望まれています。

販売単価は、県産の入荷が本格化する7月の販売単価が安値となっていることが課題となっています。

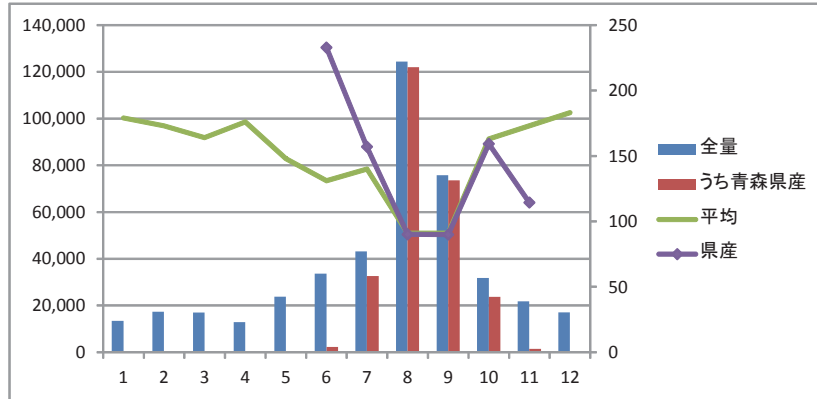


図表7 平成24年青森花卉における輪ギクの入荷量と単価

(2) トルコギキョウ ～夏場の流通はほとんど県産が占める～

輪ギクに次ぐ取扱量のトルコギキョウは、年間約43万本流通しており、県産は約25万本で占有率は59%となっています。特に、7～10月の占有率は9割を超えています。

販売単価は、県産と他県産ではあまり差はみられません、入荷量が多い8～9月がともに安値となっています。

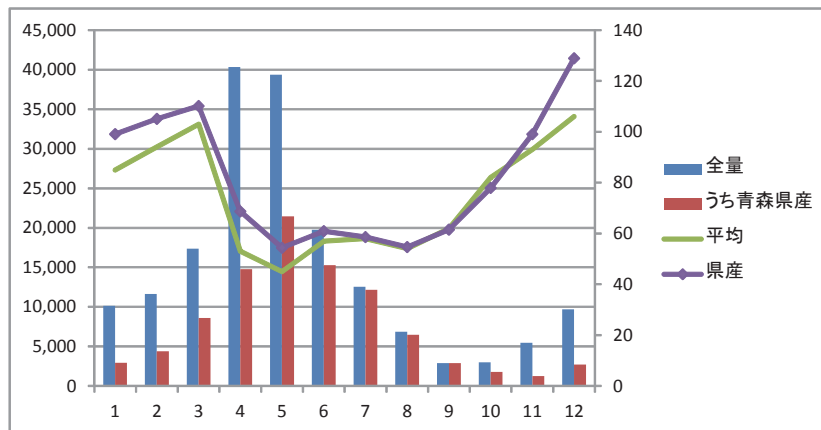


図表8 平成24年青森花卉におけるトルコギキョウの入荷量と単価

(3) アルストロメリア ～他県産より高い単価で4～9月の占有率は53%～

アルストロメリアは、年間約18万本流通しており、県産は4～9月を中心に約9万本で占有率は53%となっていますが、7月から9月はほぼ全量が県産となっています。

販売単価は、県産が他県産より若干高値となっています。



図表9 平成24年青森花卉におけるアルストロメリアの入荷量と単価

## 6 県内産地直売所の花き販売状況 ～まだまだ需要があるキク、トルコギキョウ～

県内には産地直売所が約180ヶ所ありますが、この中から無作為に7店舗選出し、アンケートを実施したところ、花き販売額の多い直売所では2,000万円を超え、7店舗合計では5,211万円となり、このうち地元の花の販売額は3,734万円となっています。

地元の消費者にわかりやすく認識させるための産地表示は、7店舗中5店舗で実施されています。

課題としては、品目が偏ったり、冬期間に地元産の花きが少ないことがあげられます。

取扱量が多い品目は、キクやトルコギキョウで、盆や彼岸での需要が多くなっています。

今後もっと増やして欲しい品目もキクやトルコギキョウという結果となりました。

直売所における花きがまだ不足している状況から、直売所での花きの取扱量は、今後ますます増やす余地があると考えられます。

図表10 県内直売所アンケート結果

(単位:万円)

	花き販売額合計額	うち地元産販売額	産地表示
直売所7店舗合計	5,211	3,734	5店舗



地域ごとに特色がある直売活動

## 第2章 本県花き生産・流通の課題

### 1 生産対策

#### (1) 長期出荷、作型の分散化

本県の花き生産は、冬場に気温が低く日照時間が短いことに加え、降雪量が多いことから、晩秋から早春の生産量が極端に少なく、さらに、燃油価格高騰の影響で暖房期間を短縮しているため、促成及び抑制栽培の減少による収穫期間の短縮が見られます。

また、近年では、本県においても夏場の高温により、夏秋期の収穫期の前進と品質低下が問題となっています。



電照による開花調節(輪ギク)

#### (2) 品質の向上

花きの価格は、野菜や果実以上に色や形、長さ、病虫害の有無などの外観の品質によって大きく左右されるため、品質向上が経営上最も重要となります。

また、近年の温暖化の影響により、輪ギクやアルストロメリア等に奇形花が発生したり、秋出荷型のトルコギキョウが短茎開花し、計画出荷の妨げとなっています。



品質向上のためのネット設置(リンドウ)

このため、生産技術の高度化と商品としての揃い等の品質向上とともに、品質格差の是正が重要となっています。

### (3) 病害虫、連作障害等への対応

花きは品目が多いため、病害虫の発生実態が明らかになっていないものや登録薬剤が少ない等防除体制がまだ不十分な状況です。

また、歴史のあるキクやトルコギキョウ等の産地では、ハウスの連作による土壌の塩類集積や土壌病害の発生が増加傾向にあり、生育に支障をきたす事例が見られます。

このため、病害虫防除対策の徹底とともに、土壌の健全化に向けた取り組みが重要となっています。

## 2 流通・販売体制の整備と消費拡大対策

### (1) 消費拡大への対応

産地では、消費者や流通関係者の声が直に伝わりづらいため、流通、販売関係者と情報交換し、連携を図っていく必要があります。

特に、一部の市場では評価が高いもののまだ知名度が低い県育成デルフィニウムは、県内外の市場や実需者へ情報提供を行う必要があります。また、県産品を県民に広くPRするため、これまで開催してきた「青森県花の共進会」の充実や花のある生活の提案等、花きへの関心を高める取組も重要です。

### (2) 物流システムと鮮度保持に対する取り組み

花き生産者は、消費者が花を購入する際に最も重視する「日持ちの良い花」を提供することが求められています。

しかし、適正な品質保持剤を処理する前処理や予冷、バケツ等の湿式輸送、低温流通、採花日明示が産地に十分浸透されていないことや、予冷の不備等により生産者及び産地間で日持ち性にバラツキが見られているので、産地全体で品質・規格を統一して市場・実需者が求めるレベルに引き上げることが必要です。



出荷調整(トルコギキョウ)

### (3) 情報提供の強化

本県は、「夏季冷涼な気候を活かした、色鮮やかで日持ちの良い花」をキーワードに販売促進を進めてきましたが、それを消費者に対して具体的に示すデータの整備が遅れています。

産地が取り組んでいる花きの特性や生産・出荷予定などの産地情報を流通・販売関係者、消費者へ提示する必要があります。





地元イベントでの消費者交流

#### (4) 花の楽しみ方への対応

これまで、消費者に対する県産花きのPR活動として「あおもりフラワーフェスティバル」を開催し、県産花きや県育成オリジナル品種を展示したり、フラワーアレンジメントの普及を図ってきました。

今後も、消費者ニーズを的確にとらえ、生産者、流通・販売関係者が連携して花の楽しみ方を一層充実・普及することにより、需要拡大につなげていくことが必要となっています。



親子でフラワーアレンジメント作成

### 3 担い手の育成・確保

花きを経営の柱とする県内の認定農業者は増加傾向にあるほか、花きを主体とする新規就農者が最近多い年には5～7人にもなりますが、産地では連作障害の発生や生産者の高齢化による引退、担い手不足などにより栽培戸数、一戸当たりの作付面積とも減少しています。

花き生産者の新規参入を進めるためには、花き経営を広く知ってもらう必要があるため、農業高校等の教育機関との協力を得て、関係機関が連携して花き経営が魅力あることをPRしていくことが必要となります。

## 第3章 本県花き振興のための方策

本県の花き産業は、最近の好況感を受け法人需要の回復に期待が高まっているほか、国では花き産業の振興、花きの輸出振興、文化も含めた消費拡大を柱とする花き振興法を制定する予定で、平成26年度には花きの国庫事業が新設されるなど花き振興にとっての追い風が強まりつつあります。

このような情勢変化も見直しながら、本県の強みを活かした花き生産を拡大していくためには、品質の向上や省力・省エネ化、大規模化による生産性の向上を図るとともに、担い手の育成・確保に努めながら、特にJA花き部会や集落営農組織などが中核的な役割を担って、産地化を進めていくことが重要です。

また、売れるものをつくり、新たな環境変化に対応していくために、花き関係者が情報交換を行い、実需者とのよりよい信頼関係を築く必要があります。

### 1 生産対策

#### (1) 高品質安定生産の推進

本県に適した高品質生産を推進するため、(地独)産業技術センター農林総合研究所を花きの試験研究の拠点として、各地域県民局地域農林水産部との連携のもと、生産・流通の改善に役立つ技術開発を進め、技術水準の向上を目指します。特に、発生予察を活用した効率的な病虫害防除対策、連作障害を軽減するための環境に優しい土壌健全化については、共通課題として取り組みます。

また、花きの育苗は、生産者間で技術的な差が大きく、品質にも影響が出ています。生産者の効率的な生産活動と低コスト生産が可能となるように農業協同組合、市農業指導センター、(地独)産業技術センター農林総合研究所と連携して、共同育苗施設で安定的に苗を供給できるように検討します。



生産安定に向けた指導者研修(アルストロメリア)

#### (2) 長期出荷に向けた省エネ・低コスト栽培の推進

本県の花き栽培は、収穫期が夏秋期に集中しています。このため、効率的な保温と暖房、低温開花性品種の組み合わせにより、出荷時期の拡大、品質の向上を図り、実需者から望まれる長期出荷体制を図ります。特に、エマルジョン暖房、ヒートポンプ、まき・もみ殻暖房等の省エネ暖房の普及や変温管理技術の導入促進などによる地域の実情に即した省エネ・低コスト栽培の導入を推進します。

### (3) 夏場の高温対策の推進

夏場の高温による品質の低下、出荷期間の前進を防ぐため、寒冷紗等の遮光資材を用いた対策を推進するとともに、井戸水冷却等の低コスト高温対策の試験・普及を行います。



低コスト・高品質栽培に向けた検討(トルコギキョウ)

### (4) 取り組みやすい土地利用型花きの推進

小ギクやグラジオラス、ひまわり、花木類等の品目は、初期経費が少なく花きを栽培したことのない農家も容易に取り組むことができ、省力的で耕作放棄地対策にもつながることから一層の導入を進めます。

### (5) 特色ある産地づくりに向けた県育成オリジナル品種等の導入

花の購入者のニーズは、消費者個々の色や形に対するこだわり、新しい品種、珍しい花など多様化しています。このため、本県の気象条件に適合したデルフィニウム等の県育成オリジナル品種の安定供給・生産を進め、特色ある産地づくりを目指します。



県育成オリジナル品種研修会(デルフィニウム)

## 2 流通・販売体制の整備と消費拡大対策

### (1) 産地と連動した市場の新たな販路開拓

産地の動きと連動した販路開拓に向けて、生産者、農業協同組合、花き卸売市場、花き販売店等関係者の意見交換会を開催し、お互いの情報を交換し、取引の可能性等について検討します。

特に将来の基幹品目を目指す県育成のデルフィニウムでは、需要が期待できる消費地の販売店へのテスト供給、市場での展示・求評会等を企画し、産地情報を提供して周知を図ります。

### (2) 新たな市場の創出に向けた物流システムの構築

消費者・実需者が求める「色鮮やかで日持ちの良い花」を購入したいというニーズへ対応するため、流通段階で提供できる日持ち性に関する情報の重要性を認識し、適正な前処理剤の使用、予冷、バケツ等の湿式輸送の導入、低温流通、採花日明示の取り組みを推進します。

栽培管理で向上した日持ち性の良さをさらに向上させるため流通方法の改善を図り、日持ち試験を実施してデータの整理を行い、市場関係者、花き販売店へ示して有利販売を目指します。

### (3) お客様から支持され選ばれる県産品の創出

従来の卸売市場におけるセリによる販売のみならず、実際に花を見ることなく販売が行われる相対取引やインターネットでの取引の増加により、生産現場からのわかりやすい出荷規格、産地情報の表示が求められています。このため、多様化する流通構造に対応する品質の一定化、安定出荷、継続出荷を目指します。

生産現場から情報を常に発信できる、実需者から選ばれる産地づくりを推進します。



県産花きを使用したミニブーケ

#### (4) 地産地消と花育活動の推進

花きの需要を拡大するためには、広く消費者に対して花きの魅力を情報発信し、利用方法の提案などを行う必要があります。

そのため、「あおもりの花・特得ウィーク」、「あおもりフラワーフェスティバル」等の開催、インターネットによる情報提供や新たな利用方法の提案等のPR活動により、これまで以上に消費者の需要喚起を図ります。

また、市場関係者、花き販売店、飾花技術者等関係者との連携により、子供の頃から花や緑に親しむことによって、健全で豊かな心を培うことを目的とした花育活動を推進します。

### 3 担い手の育成・確保

#### (1) 多様なルート・手法による新規就農者の育成

関係機関が連携して、農業高校、営農大学の卒業予定者を対象に就農関係施策のPRや花き栽培への啓蒙を行い、新規就農に関する相談を随時受け付けます。

研修が必要な場合には、営農大学校をはじめ、先進的な農業経営者などの指導・研修受入、研修資金の活用を誘導します。

また、初期投資の軽減対策として農地の賃貸借や遊休ハウス等を利用したり、国の

「青年就農給付金」、「就農支援資金」や県単独事業の活用によって独立・自営就農を促進します。

就農後の栽培技術や経営指導などは、技術の高い農業者がトレーナーとして指導する等のフォローアップ体制の強化により、就農後の経営安定を図ります。

さらに、栽培開始から数年経過した若手花き栽培者には、次代を担う「若手農業トップランナー」の研修への参加を誘導します。



地域活動に参加する新規就農者



## (2) 集落営農組織への花きの導入

担い手が減少する中で、地域において中核となる集落営農組織等の重要性が増してきているほか、国の水田農業に係る政策転換に伴って収益力の低下が懸念されています。このため、集落営農組織の活動の強化策として、優良事例の情報提供や事例研修等を開催し、集落営農組織へ新たな高収益作物としての花きの導入を推進します。

また、栽培技術研修等により、栽培管理を指揮する担当リーダーの育成を進めます。

図表11 ハウスの利用体型事例

品目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水稲育苗ハウスの活用例													
水稲育苗				□	□□	□							
ひまわり (60日タイプ)						□	□□	□□	□	□□	□□		
トマトとの輪作例													
夏秋トマト						□□	□□	□□	□□	□□	□□		
ストック	□□	□□	□□	□□								□□	□□
花きの輪作例(三八地域)													
輪ギク						□	□□	□□	□□	□			
カンパニュラ	□□	□□	□□	□□	□					□	□□	□□	□□
花きの輪作例(中南地域)													
トルコギキョウ			□□	□□	□□	□□	□						
ストック									□□	□□	□□	□□	

□ : ハウス占有期間

## (3) 活躍が期待される女性農業者の育成

就農人口の6割以上を占める女性農業者が、新たに花き栽培に取り組む場合、初期投資費用が少なく比較的栽培が容易な品目を提案したり、産地直売所会員を対象とした研修会、先輩農業者から栽培管理の助言が得られるトレーナー制度をすすめ、無理なく栽培を開始できる条件を整えます。

## 第4章 本県花き生産の目標

花きは、景気に左右される品目で、これまでの長く続いた景気低迷で産出額の減少が続きましたが、国の新たな経済対策の効果が出始めたこともあり、景気の改善が見込まれ、法人需要の回復が期待されます。

本県が目指す花きの生産目標は、「攻めの農林水産業」推進基本方針の目標年度である平成30年度とし、取組の重点化を図りながら花き栽培に取り組む生産者数1.2倍、出荷の長期化や栽培面積の拡大による1戸当たり産出額1.2倍の作付面積167ha（「攻めの農林水産業」推進基本方針より）、産出額30億円を目指します。

平成30年度には、取組実績を検証しながら本振興方針を見直し、さらなる本県花き生産の振興を目指します。

図表12 本県花き生産の目標値

(単位：ha、百万円)

年次 品目	平成24年度(A)		平成30年度(B)		B/A(%)	
	作付面積	産出額	作付面積	産出額	作付面積	産出額
キク	28.8	495	34.0	700	118	141
トルコギキョウ	9.6	144	13.0	250	135	174
デルフィニウム	0.7	6	3.0	40	429	667
ヒマワリ	3.5	29	5.0	50	143	172
リンドウ	2.3	14	3.5	30	152	214
アルストロメリア	2.4	82	4.0	120	167	146
グラジオラス	1.5	14	2.5	25	167	179
その他品目	89.6	1,381	102.0	1,785	114	129
合計	* 138.4	2,165	* 167.0	3,000	121	139

※ 「攻めの農林水産業」推進基本方針より

## 第5章 品目別振興方策

### 1 重要品目

本県全域で栽培され、花き生産の基幹となっているキク、トルコギキョウのほかに、将来の基幹品目として期待できる県育成オリジナル品種のあるデルフィニウムを加えた3品目を重要品目に位置づけ、生産振興を図ります。

#### キク

#### 1 品目の強み

盆、彼岸等の物日<sup>ものび</sup>や仏花で確実に需要があり、単価も比較的安定  
開花調節によって出荷時期の調整が可能

#### 2 現状

- (1) 平成24年度の作付面積は、28.8haと本県花き栽培面積の21%を占め最も多い品目となっており、輪ギクが18.1haと最も多く、小ギクが8.5ha、スプレーギクが2.1haとなっています。
- (2) 施設の割合は、輪ギクで92.3%、小ギク、スプレーギクで31.4%となっています。
- (3) 輪ギクの主産地は、西北地域が5.7ha、三八地域が7.5haとなっています。
- (4) 小ギクの主産地は、中南地域で作付面積は3.1haとなっています。
- (5) 芽なし品種の導入は進んでおらず、芽かき作業が生産者の負担となっています。
- (6) 小ギク、スプレーギクの需要はありますが、県内にまとまった産地はなく、個人出荷が大半を占めます。

#### 3 推進方向

- (1) 生産体制の強化
  - ①シェード処理、電照栽培、4段サーモの導入による出荷期間の拡大
  - ②転作田などを利用した小ギクの大規模生産者の育成
- (2) 環境に配慮した花き生産の推進
  - ①夏場の高温に強い品種の選定
  - ②LEDなど白熱灯代替光源の模索と設置方法の確立
  - ③低温開花性品種の導入
- (3) 消費者ニーズに対応した販売対策と需要の拡大
  - ①芽なし品種の特性把握と栽培方法の確立
  - ②エコمام(S、Mサイズ)などの実需者に求められる品種・規格の検討



輪ギク



## トルコギキョウ

### 1 品目の強み

多様な花形・花色と日持ちの良さで年々高まる需要  
盆や彼岸に収穫できる作型が無加温栽培で可能

### 2 現状

- (1) 平成24年度の作付面積は9.6haで、微増となっています。主産地は、中南地域が3.8ha、西北地域が3.4haとなっています。
- (2) 主な作型は、春播き夏秋出し栽培、秋播き無加温夏出し栽培で、7～9月の県内市場では入荷量に占める県産品の割合が高く維持されています。また、単価の高い春播き種子冷蔵秋出し栽培に取り組む産地も増えています。
- (3) 秋出し栽培では、夏場の高温により早期に短茎開花し、10月以降の出荷が少なくなっています。
- (4) 品種の変遷が激しく、毎年多数の新品種が発表されるため、栽培特性の習得が困難となっています。
- (5) 連作障害とみられる土壌病害の多発により品質が低下し、良品生産が困難なほ場があります。

### 3 推進方向

- (1) 苗冷蔵施設の利用と短日処理などによる出荷期間の拡大
- (2) 寒冷紗による高温対策の実施
- (3) 品種比較展示ほによる新品種栽培試験の実施と公表



研修会で栽培特性を把握



トルコギキョウ

## デルフィニウム

### 1 品目の強み

多彩な県育成オリジナル品種を活用した長期出荷が可能  
冷涼な気候で生育良好

### 2 現状

- (1) 平成24年度の作付面積は0.7haで、横ばい傾向となっています。主産地は、東青地域が0.4ha、西北地域が0.2haとなっています。
- (2) デルフィニウムの消費動向はシネンシス系（スプレータイプ）が主流となっていますが、県産は花が穂状に多数ついている豪華なエラータム系（ジャイアントタイプ）が47%を占めます。しかし、出荷量が少なく花穂の曲がりなど品質にばらつきが見られます。
- (3) エラータム系には、県が育成した品種がブルースピアー、スカイスピアー、イエロースピアー、アメジストスピアー、なつぞらスピアー、ピンクスピアーの6品種あります。

### 3 推進方向

- (1) 県育成オリジナル品種の円滑な種苗供給
- (2) 収穫時期の拡大等の高収益栽培技術の確立
- (3) 県外市場での展示や東京の花き販売店へのテスト販売によるPR
- (4) 適正な前処理剤の使用、湿式低温輸送の推進
- (5) 市場ニーズが高いシネンシス系の導入



県共進会に出展された県育成オリジナルデルフィニウム



ピンクスピアー

## 2 地域振興品目

特定の地域で生産され、今後生産拡大の可能性が高いヒマワリ、リンドウ、アルストロメリア、グラジオラスの4品目を地域振興品目に位置づけ、生産振興を図ります。

### ヒマワリ

#### 1 品目の強み

他品目の前・後作で栽培可能な短期間収穫品目

露地栽培でも品質の良い切り花が収穫でき、容易に栽培可能

#### 2 現状

(1) 平成24年度の作付面積は3.5haで、主に中南地域で栽培されています。

(2) 周年で需要があり、市場価格は比較的安定していますが、全国的に増加傾向なので高品質化が求められています。



ヒマワリ

#### 3 推進方向

(1) 水稻育苗ハウス等の空き施設を活用した作付誘導

(2) 県外市場への販売に向けた出荷規格の見直し

### リンドウ

#### 1 品目の強み

水田転作での生育が良好で露地栽培が可能

#### 2 現状

(1) 平成24年度の作付面積は2.3haで、主に上北地域、中南地域で栽培されています。

(2) 仏花として盆、彼岸出荷が主で需要期に限られ、県内市場に入荷されるリンドウは他県産がほとんどです。

(3) 市場性のある品種は、育成者の権利保護のため栽培契約を結び毎年種苗の他にパテント料金が加算され、面積拡大の障害になっています。



リンドウ

#### 3 推進方向

(1) J A花き部会等での種苗購入費の積み立てと共同購入による経費の節減

(2) 盆、彼岸需要に限らない品種の選定

(3) 日持ち向上のための受粉防止用ハチよけネットの導入

## アルストロメリア

### 1 品目の強み

高温対策により夏秋期に有利販売、加温により周年出荷も可能

### 2 現状

- (1) 平成24年度の作付面積は2.4haで、主に中南地域で栽培されています。
- (2) 開花適温で管理することで1年中収穫できますが、近年の燃油価格高騰によって10月以降の収穫量が減少しています。
- (3) 種苗導入にはパテント料金が加算され、面積拡大の障害になっています。



アルストロメリア

### 3 推進方向

- (1) 井戸水冷却、遮熱シートなどの低コスト高温対策の普及
- (2) 適正な前処理剤の使用、低温輸送の推進

## グラジオラス

### 1 品目の強み

露地栽培ができ、省力的で大規模生産が可能

### 2 現状

- (1) 平成24年度の栽培面積は1.5haで、主に上北地域、三八地域で栽培されています。
- (2) 盆や彼岸に向けた収穫の露地栽培が主流となっており、品質と出荷時期が天候に左右されています。
- (3) 球根は輸入が多く、小ロットでは希望品種が入手できない状況となっています。



グラジオラス

### 3 推進方向

- (1) 球根冷蔵施設の利用による新しい作型の導入、別系統の導入による出荷期間の拡大
- (2) 健全球根確保、病虫害防除の徹底による出荷率の向上



【参考資料】

表1 本県花きの生産状況

(単位：ha、百万円、戸、a、人)

項目	年度	平成14年	平成19年	平成24年	24/14(%)
作付面積		253	174	138	55
産出額		2,983	2,662	2,165	73
栽培戸数		1,477	1,085	996	67
一戸当たり作付面積		17.1	16.0	13.9	81
新規就農者数		147	102	267	182
うち花き主体		6	1	3	50

【資料：花き産地出荷状況調査】

平成24年の花き作付面積は、鉢物類などの減少により平成14年より115ha減少し、138ha（14年比55%）となりました。

産出額は、平成14年より8億1,800万円減少し21億6,500万円（同73%）となっています。

栽培戸数は、平成14年より481戸減少の996戸（同67%）となり、1戸あたりの栽培面積も13.9a（同81%）と少なくなっています。

県全体の新規就農者数は、平成24年は267人と増加傾向にあります。花きを主体とした新規就農者も増加傾向にありますが、平成24年は3人となっています。

表2 認定農業者の推移

(単位：人)

項目	年度	平成15年		平成19年		平成24年			
		全国	青森県	全国	青森県	全国	24/15	青森県	24/15
農業経営改善計画総数		182,345	3,621	239,286	8,534	233,299	128	8,868	245
花き・花木(単一経営)		8,223	28	8,337	48	7,759	94	67	239

【資料：農林水産省、農業経営改善計画の営農類型別認定状況】

花き栽培を主体に経営している認定農業者数は、全国では平成15年度の8,223人から平成24年度の7,759人へと6%減少しているのに対し、本県では平成15年度の28人から平成24年度の67人へと139%増加しています。

表3 平成24年産地域別生産状況

地域	作付面積			産出額			主な産地	主な品目
	ha	占有率 %	前年比 %	百万円	占有率 %	前年比 %		
東青	23.1	17	102	58	3	74	青森市、平内町	キク、トルコギキョウ、カーネーション
中南	45.9	33	81	648	30	91	弘前市、田舎館村、平川市、藤崎町、黒石市、大鰐町	鉢ものの類（サクラソウ、シクラメン他）、キク、アルストロメリア、トルコギキョウ、バラ、苗もの
三八	40.7	29	100	727	34	96	八戸市、南部町、新郷村、三戸町、五戸町、階上町、田子町	キク、バラ、花木類、芝類、鉢ものの類（シクラメン他）、苗もの類）パンジー他
西北	18.4	13	94	245	11	70	五所川原市、つがる市、中泊町、板柳町、鶴田町	キク、バラ、トルコギキョウ、宿根カスミソウ、鉢ものの類（シクラメン）
上北	9.8	7	90	483	22	102	六ヶ所村、七戸町、十和田市、野辺地町、おいらせ町	鉢ものの類（ポットローズ、観葉植物、ポインセチア他）、苗もの類、バラ、花木類、カーネーション
下北	0.5	0.4	96	4	0.2	67	むつ市	キク
合計	138.4	100	92	2,165	100	91	—	

県内の地域別の作付面積は、中南地域が46ha（全体の33%）と最も多く、次いで三八地域41ha（同29%）、東青地域23ha（同17%）、西北地域18ha（同13%）の順となっています。

地域別の産出額では、三八地域が7億3千万円（全体の34%）と最も多く、次いで中南地域6億5千万円（同30%）、上北地域4億8千万円（同22%）、西北地域2億4千万円（同11%）の順となっています。

表4 切花類のバケット出荷割合

種類名	施設・露地栽培計				
	作付面積 (a)	生産数量 (千本)	出荷数量 (千本)	バケット出荷量 (千本)	バケット出荷割合 (%)
カーネーション	146	572	357	221	62
トルコギキョウ	955	1,630	1,403	659	47
デルフィニウム	66	47	39	10	26
バラ	367	2,543	1,603	211	13
アルストロメリア	240	1,373	7,696	0	0
宿根カスミソウ	158	156	137	0	0
宿根スターチス	45	48	41	0	0
その他スターチス	104	36	31	0	0
合計	2,081	6,405	11,307	1,101	10

バケット出荷による湿式輸送は、農業協同組合部会単位で進んでおり、カーネーション（上北地域）、トルコギキョウ（中南、西北地域）、デルフィニウム（西北地域）、バラ（中南、西北地域）で取り組まれています。

表5 花きに係る主なJA部会の状況

部会名	JA青森 花き部会	JAつがる弘前 花き部会	JA津軽みらい ときわ花き部 会	JA津軽みらい 尾上花き部会	JA津軽みらい 尾上華姫会	JA津軽みらい 園芸生産出荷協議会 花き部会(平賀・田舎 館)	JA津軽みらい 黒石花き部会	JA八戸 花き部会	JAごよつが 花き部会	JAつがるにしきた やさい・花き・果実推進協議 会 (つがる・鶴翔・津軽北部)	JA十和田おいら せ 花き振興会
戸数	53戸	65戸	7戸	13戸	17戸	38戸	15戸	79戸	21戸	83戸	38戸
作付面積	878a	1205a	120a	65a	224a	356a	37a	1260a	730a	745a	313a
1戸あたり面積	16.6a	18.5a	17.1a	5.0a	13.2a	9.4a	2.5a	15.9a	34.8a	9a	8.2a
主な品目	キク トルコギキョウ カーネーション	アルストロメリ ア 啓翁桜 リンドウ	アルストロメリ ア	輪ギク 小ギク ストック トルコギキョウ 他	スモークツリー ガマズミ 梅もどき 房すぐり 他	トルコギキョウ ヒマワリ バラ 他	トルコギキョウ 他	輪ギク バラ カンパニュラ アスター 他	輪ギク スプレーギク ヒマワリ	トルコギキョウ カスミソウ デルフィニウム ヒマワリ	リンドウ カーネーション グラジオラス
共選共販体制	個選共販	個選共販	個選共販	個選共販	個選共販	個選共販	個選共販	個選共販	個選共販	個選共販	共選共販 他は個選共販
湿式輸送						トルコギキョウ バラ		バラ カンパニュラ 他		トルコギキョウ デルフィニウム ほか	カーネーション
低温輸送		アルストロメリ のみ	冷蔵	冷蔵	冷蔵	冷蔵	冷蔵	冷蔵	冷蔵	県外出荷は冷蔵	冷蔵
特徴的取り組み	寒小ギクに注目 している。露地の 産地があるが、 高齢化が進ん でいる。	啓翁桜の促成 栽培は、部会 員が当番制で 農協の施設を 使用して行っ ている。 JA合併後広域 となったので、 各地域別に収 穫を調整し、 12月上旬～3 月中旬まで出 荷している。	井戸水冷却な どの低コスト高 温対策を推進 している。			トルコギキョウの種子 冷育苗と定植後の シエード栽培で夏秋期 の高品質栽培に取り組 んでいる。	トルコギキョウの前 作や後作にストック の作付が増えてい る。	夏ギクの「精の 一世」への切替 が進んでいる。	夏ギクの「精 の一世」の導 入が進んでい る。	9割が県外へ出荷している。	グラジオラスは 共選共販により 高品質の商品を 計画的に出荷で きるよう取り組ん でいる。 リンドウは七戸 町在来系統を栽 培している。

県内の花き取扱農協は9農協ありますが、花き部会は農協合併前の各単協ごとの組織活動が残っていて、それぞれ個性的な取り組みが行われています。



表6 平成24年(株)青森花卉における輪ギクの入荷量と単価 (単位:本、円)

月	白輪ギク入荷量		黄色輪ギク入荷量		白輪ギク単価		黄色輪ギク単価	
	全量	うち青森県産	全量	うち青森県産	全体	県産	平均	県産
1	161,210		23,110		73		53	
2	125,590		27,880		97		72	
3	190,120		62,490		73		56	
4	148,830		25,670		88		78	
5	181,200		27,060		60		69	
6	185,880	3,100	29,980		48	70	48	
7	195,330	30,700	57,030	18,380	41	37	33	14
8	218,350	70,960	66,180	14,750	85	96	71	56
9	197,460	88,320	49,020	13,970	71	69	61	53
10	222,205	111,780	27,100	9,420	57	57	52	33
11	179,700	79,970	23,340	1,250	54	48	56	28
12	247,400	16,930	81,390	410	76	64	78	52
合計	2,253,275	401,760	500,250	58,180	—	—	—	—

表7 平成24年(株)青森花卉におけるトルコギキョウの入荷量と単価

(単位:本、円)

月	入荷量		単価	
	全量	うち青森県産	平均	県産
1	13,400		179	
2	17,400		173	
3	17,019		164	
4	12,980		176	
5	23,820		148	
6	33,724	2,290	131	233
7	43,168	32,558	140	157
8	124,337	122,007	91	90
9	75,740	73,600	91	90
10	31,808	23,658	163	159
11	21,861	1,441	173	114
12	17,040		183	
合計	432,297	255,554	—	—

表8 平成24年(株)青森花卉におけるアルストロメリアの入荷量と単価

(単位:本、円)

月	入荷量		単価	
	全量	うち青森県産	平均	県産
1	10,140	2,920	85	99
2	11,620	4,390	94	105
3	17,375	8,590	103	110
4	40,350	14,780	53	69
5	39,370	21,460	45	54
6	19,750	15,270	57	61
7	12,540	12,150	58	59
8	6,871	6,471	54	55
9	2,905	2,905	62	62
10	2,975	1,775	82	78
11	5,465	1,235	93	99
12	9,688	2,708	106	129
合計	179,049	94,654	—	—

(株)青森花卉での主要花きの月別取扱量によると、県産花きは夏秋期に入荷量が増えるものの、全入荷量に占める割合は低いため、生産量の増加や出荷期間の拡大等により、今後さらに県内のニーズに対応できるものと考えられます。



